こと、そしてその研究は隠れキリシタンや浮世絵など驚くほど広い範囲に及ぶことなど興味深い内容でした。講義後半は実技を交えた算法の講義でした。様々なかけ算・わり算を実際にそろばんを弾きながら学ぶことができました。

第六講座「そろばん　算数科での可能性」

この講座は現職の小学校教諭である下道成人先生による学習具としてのそろばん活用についての講義でした。小学校の算数科では、問題を解くことに関して、練習して習熟させるというところから、新たな考えを創って行くという風に、算数は外にあるものではなく、子どもの内にある算数の芽を育てていくという風に指導観が変化していること、その中で低学年での作業的・体験的活動における学習具として、いかにそろばんを活用するかを熱心に研究されておられました。

第七講座「算数科のそろばん」

岡久珠算教育研究所長による現職教員対象指導者講習会についての講義では、この講習会の意義や指導上の留意点、算数科の中のそろばんの位置付け等についての説明がありました。普段の教室での授業とは違うという意識を持って行う必要があること、教科書に載っている事はすべてキチンと教えなければならないことなどを学びました。

「パネルディスカッション」

今回は、指導上の悩みを語るというタイトルで、班別に与えられたテーマについて話し合った結果等を発表しました。各班のテーマは、乗算算法の指導法について、学習障害者への対応、単独指導者が取り組む随時制授業、叱る時の魔法の言葉、大還元、5＋6・11．—6の指導法でした。私は大還元を引き当ててしまい、班内でも表面的な議論しかできなかったのが悔やまれました。

「懇親会」＋「夜の部」

集中講座では今回初めて懇親会が行われたそうですが、予定の二時間はあっという間に過ぎ、受講者の大半が深夜まで集まり大いに語らいました。やはり、お酒の力は偉大ですね。

第八講座「教育心理学・教育学」

三日目、全珠連学術顧問でもある中野靖彦愛知淑徳大学教授の講義では現代の子どもの待ちの性格や自己肯定感の低下といった傾向や教師側の指導観について学びました。

「閉講式」

最初は長く感じるかと思った三日間もあっという間に終わり、理事長から終了証書が手渡されました。そして昼食後、全日程を終えて解散、皆さん名残を惜しみつつ、研究集会での再会を約束し、たくさんの宿題とともに帰路につきました。

個人的には反省すべき事の多い三日間でしたが、たくさんの知識とたくさんの仲間を得られたことは大きな収穫でした。ありがとうございました。

お国自慢

志榛地区　田中　陽

「お国自慢とか旅行記とか…」これが研修部の先生の原稿依頼のことばです。

僕は長いこと（旧制商業入学のころから）俳句をやっている関係で、近ごろは出版社等の出す俳句雑誌からも原稿や選句の依頼を受けたりします。

そんな俳句誌もよく全国それぞれの郷土の風物を紹介する、つまり「お国自慢」の記事とそれを詠んだ仲間の俳句を求めてきます。

毎日新聞社が発行する『俳句αあるふぁ』という雑誌が本年一月、「日本の祭り歳時記」という名の特別号を出しました。

僕の住む島田市には日本三奇祭の一つといわれている「島田帯まつり」があります。たまたま昨年が、三年に一度それが行われる島田大祭の当たり年でもありましたので、次のような記事を寄稿しました。